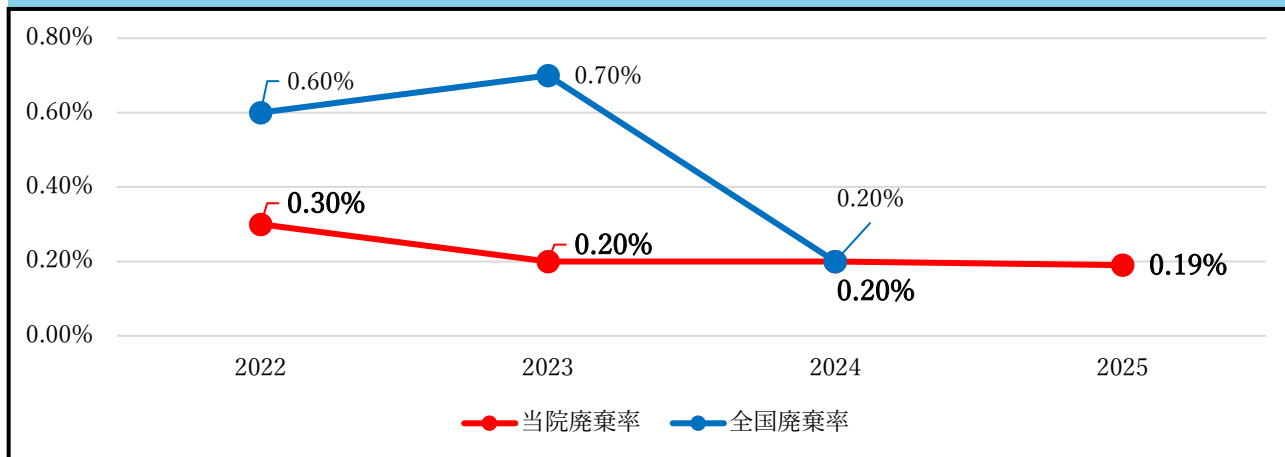
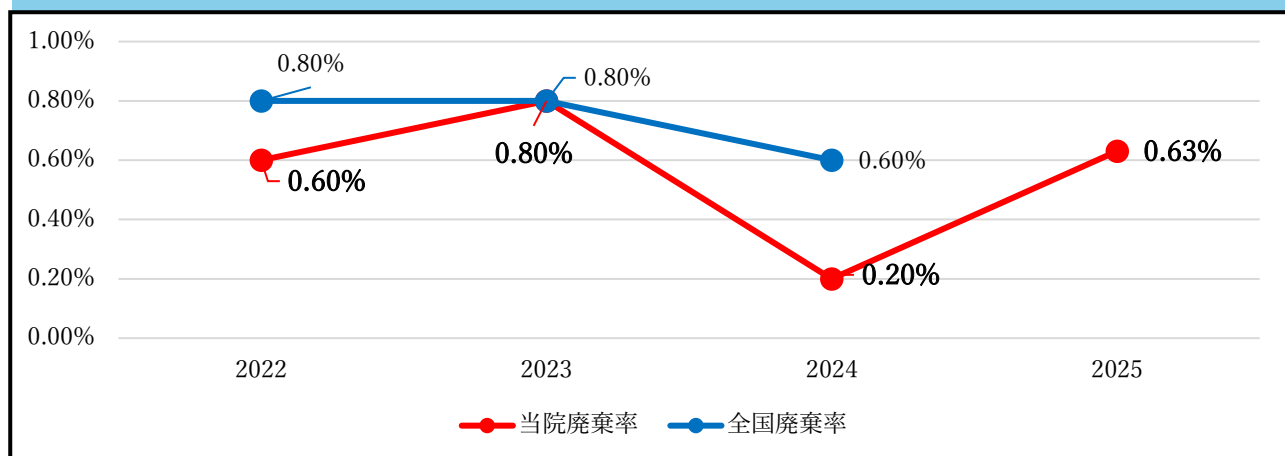


## 14. 血液製剤廃棄率

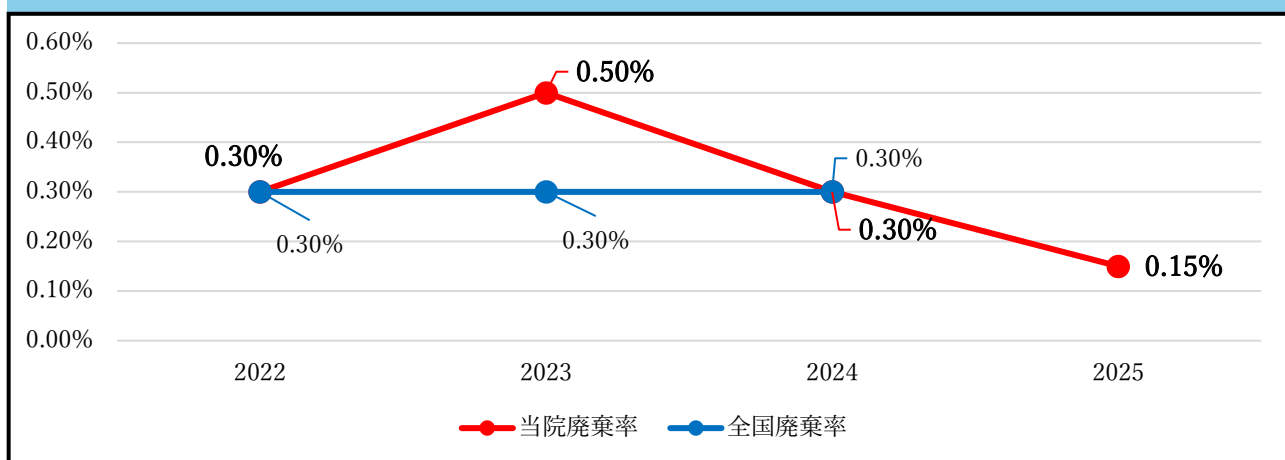
### 赤血球廃棄率



### 新鮮凍結血漿廃棄率



### 濃厚血小板廃棄率



※全国廃棄率は10月開催予定全国大学輸血部会議にて公表されるため、2025年度データは未記入

## ➤ 指標の説明

この指標は、病院が仕入れた血液製剤のうち、治療に使われずに廃棄された割合を示すものです。血液製剤は患者さんの治療に欠かせない大切な資源ですが、使用期限が短いため、必要な量を正確に見きわめて管理しなければなりません。また、品質を守るために決められた手順で管理しなければ、使われないまま廃棄されてしまうことがあります。

廃棄率が低いということは、医療スタッフが連携して血液製剤の在庫を適切に管理していること、そして品質管理のルールを厳格に守り、血液製剤を扱っていることを示しています。

## ➤ 定義

### 【血液製剤廃棄率】

分子：廃棄量

分母：使用量+廃棄量

## ➤ 評価

2025年度の当院赤血球廃棄率は0.19%で、前年度(0.20%)と同様にとても低い水準を保っています。全国平均(2024年度0.20%)ともほぼ同じで、適切に管理されていることを示しています。新鮮凍結血漿(FFP)は当院0.63%で全国平均(2024年度0.60%)とほぼ同じですが、当院の前年度(0.20%)より増えているため、改善に取り組む必要があると考えています。濃厚血小板は0.15%と全国平均(2024年度0.30%)より低く、適切に使用・管理できている状況です。血液という大切な資源を無駄にしないため、今後も廃棄の理由を見直し、運用の改善を重ねながら、必要な血液を確実に患者さんへ届けられる体制づくりを進めてまいります。